

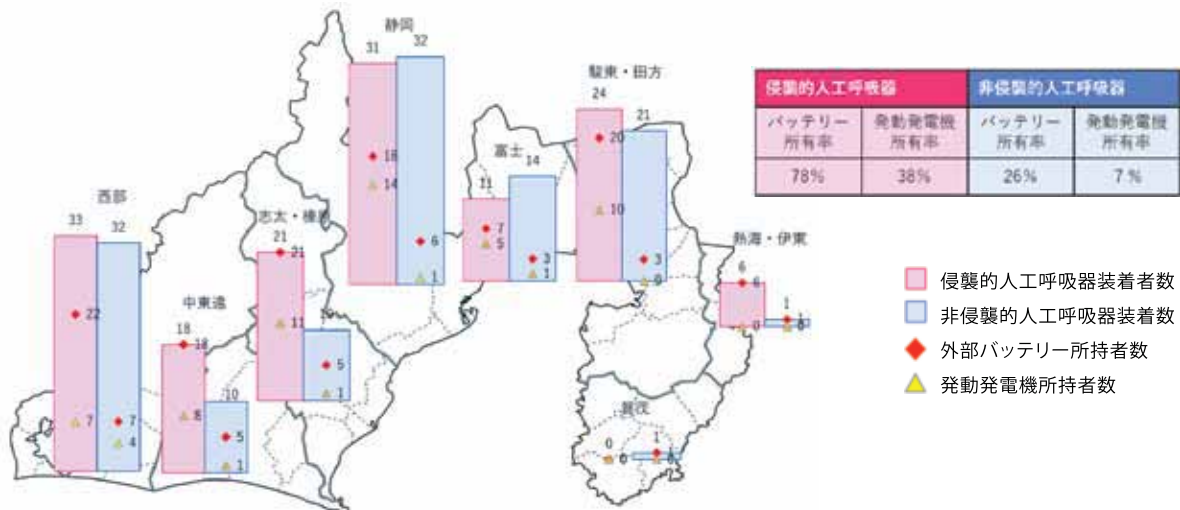
大規模災害に備えて外部バッテリーや 発動発電機を所有していますか？

難病医療相談支援センター 中村美樹

過日は台風15号の影響で、千葉県南部を中心に多くの家屋が甚大な被害を受け、広範囲に発生した停電は完全復旧までに15日ほどかかったとの報道がありました。昨年10月には、浜松医科大学がある静岡県西部地域も、台風24号によって大規模な停電にみまわれました。大学病院自体の停電は免れたものの、自宅の停電復旧に数日かかったスタッフも少なくなく、電気の大切さを改めて実感したところ。実際、在宅人工呼吸器を使用している方にとって、大規模停電が重大な事態を引き起こすことは容易に想像できます。

当院の医療福祉支援センター（難病医療相談支援センター）では、大規模災害を想定した「人工呼吸器装着患者さんの難病協力病院（県内36施設）への受入可否照会訓練」を、静岡県疾病対策課と共同して年2回行っています。この訓練により、各病院での受入可能人数を迅速に確認する流れが概ね確立されましたが、そもそも県内にどれだけの要援助者がいるのか正確に把握されていませんでした。そこで、県内の訪問看護ステーションにご協力いただき、ご自宅で人工呼吸器を装着している方の人数と、外部バッテリーや発動発電機の所持状況の把握に向けた調査を行いました。

静岡県人工呼吸器装着者数調査（2018年）



回答率は8割ほどですが、上図に示すように、バッテリーならびに発動発電機の所有率は、侵襲的人工呼吸器を装着されている方（気管切開）が78%と38%。非侵襲的人工呼吸器（マスク式）を装着されている方が26%と7%であり、人工呼吸器を使用している患者さんの非常用電源の確保率は比較的低い傾向にあることが分かりました。外部バッテリーを持っていても、バッテリーには寿命がありますので定期的な交換や点検等が必要です。

各自治体で非常用電源の確保に向けた助成事業等がありますが、未だ十分な支援環境は確保されていない印象もあり、当センターからも継続的な働きかけをしていきたいと考えています。